

日本の特定外来生物 ～セアカゴケグモ～



東洋産業だより

Vol. 195
2020年4月号

昨今、日本では特定外来生物が問題となっています。特定外来生物とは海外起源の外来種の中で、生態系・人の生命・身体・農林水産業へ被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれがあるものとして指定された生物のことをいいます。

今号では、その中ですでに皆様の近くにいるかもしれない「セアカゴケグモ」についてご紹介します。

セアカゴケグモは、オーストラリアが原産地で、輸入木材に付着して他国へ侵入・生息拡大したと考えられており、世界的にも問題となっています。日本では1995年11月に大阪で発見されて以降、現在ではほぼ全国で確認されている程、生息範囲が拡大しています。

セアカゴケグモが問題視されている理由は、日常で咬まれる可能性が高いためです。本種は攻撃性が低く、幸いにも日本では重症化した例はほぼありませんが、咬まれると痛みや腫れを引き起こし、海外では重症化した例や、場合によっては死亡し

た例もあります。また、ベントの裏やブロック・フェンスの隙間、排水溝の側面やふたの裏等、野外の人工物の物陰に不規則で一見雑な巣をはって潜むため、日常の中でうっかり接触してしまう可能性があります。

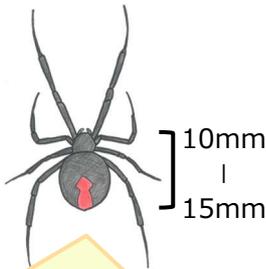
セアカゴケグモが室内に侵入することは稀ですが、野外で普通に見られるようになった今、すでに皆さんのいる建物の敷地に侵入しているかもしれせん。

特に、敷地を出入りするもの（荷物や車両等）や建物外周の点検等を行ってみてはいかがでしょうか。

もし生息が見られた場合は、広範囲のいたるところにいます。弊社でもご相談や

対策のご提案も行ってまいりますので、お気軽にご連絡ください。
セアカゴケグモ等の特定外来生物に対して、私たちがまず一番やらなといけないことは、問題となっている特定外来生物の知識を付けることです。どんなものがいて、どんな姿をしているのか、どんな場所にいるのか等、相手を知ることが重要です。中には見分けが難しい生物もいますので、疑わしいものを見つけた際は、触らずに、専門機関までご相談ください。

成熟♀



10mm
15mm

脚が長く、腹部が丸い
全体は黒く、腹部の背面に目立つ赤い模様がある



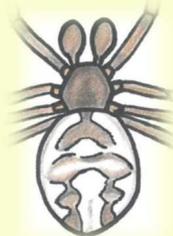
腹部腹面に砂時計型の赤い模様がある

成熟♂



3-5mm

♀より小さく、地味
頭の前の触肢の先が丸く膨らむ
腹部は白く、背面に複雑な模様がある

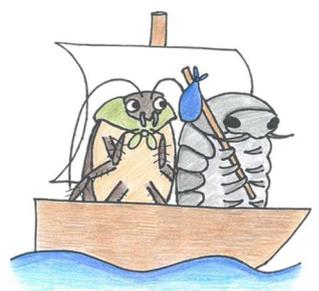


今月の豆知識：身の回りの外来生物

身の回りにはいる生き物の中には、実は海外から来たという生物も多くいます。例えば、一般家庭でよく見られる嫌われ者のクロゴキブリもその一つです。諸説ありますが、中国南部が原産と言われており、江戸時代後期頃に日本に上陸して全国に広がったと言われていいます。

また、野外でよく見かけるダンゴムシも実は最近やってきた外来種です。一般的に見られるものは「オカダンゴムシ」とよばれるもので、こちらも諸説ありますが、明治時代にヨーロッパから商船にまぎれてやってきたと言われていいます。オカダンゴムシは在来種より乾燥に強いとされることから、今や、プランターの下や木の根元等、野外の物陰に行けばどこでも見られる虫のひとつですが、実は普通に人目につくようになったのは昭和に入ってからというルーキーなのです。

このように、今はよく身の回りで見られる生き物でも、実は比較的最近日本にやってきた新入りが多くいます。こういった新入りが見れることで、身の回りで見られる生物が変わっていくのかもしれないね。



東洋産業株式会社

本社 岡山市北区新屋敷町3-19-120

TEL 086-1241-8080

FAX 086-1241-8094

拠点

大阪・姫路・岡山・倉敷・福山・広島
高松・松山・金沢

www.to-yo-s.co.jp

(バックナンバー掲載中)